



2021年2月4日

日本鉄道労働組合連合会

## 第30回臨時大会・第33回中央委員会

# 強固な団結と労使関係で難局を克服する！

2月2日、JR連合は北九州市において、第30回臨時大会・第33回中央委員会を開催した。開催に際しては感染症予防に万全を期すとともに、会場の様子をライブ配信し、緊急事態宣言下にあっても全国の仲間と難局を克服すべく意志統一を図った。



大会・委員会両方の成立を確認後、第30回臨時大会の議案としては、コロナ禍のような不測の事態においても、関係者相互間の自由かつ闊達な意思疎通を十分担保しつつ、インターネット通信等を活用して機関運営を行うための規約・諸規則の改正を提起し、承認を受けた。続いて、第33回中央委員会の議案では、安全の確立に全力を挙げて取り組むことを前提に、コロナ禍による社会・環境変化への対応、2021春季生活闘争勝利、「JR連合ビジョン」の実践を通じた組織強化・拡大、政策課題解決などを柱とする当面の活動方針を、真摯な討議を経て満場一致で決定した。

冒頭、挨拶に立った荻山市朗会長は、緊急政策課題の解決にむけた昨秋の署名活動や決起集会、数次の要請行動による成果と課題を述べた上で「雇用調整助成金の特例延長をはじめ、JR産業が苦境を乗り越えるために必要な様々な措置が講じられるよう、国会議員懇談会や連合、交運労協と連携し、継続して取り組む」と決意を語った。また、2021春季生活闘争については「まずJRグループに働くすべての仲間の雇用を守り、定期昇給相当分を確保し賃金水準を維持することを最優先課題に位置付ける。その上で、働きの価値に見合った賃金の実現や、社会変容を見据えた働き方の改革を求める。今春闘では初めてJR7単組とグループ労組の方針を統一して提起した。全単組が『ONE TEAM』となって臨もう」と檄を發した。

また、尾形泰二郎事務局長は総括答弁で「現下の厳しい局面を乗り越え、JR産業で働くすべての仲間の『自信』と『安心』を確かなものにすべく、JR連合は主体性を持って皆さんとともに考え、行動する。対話を通じた組織の連帯と、信頼に裏打ちされた労使関係で運動と政策を磨き、自らの手で将来を切り拓こう」と熱く訴えかけた。

